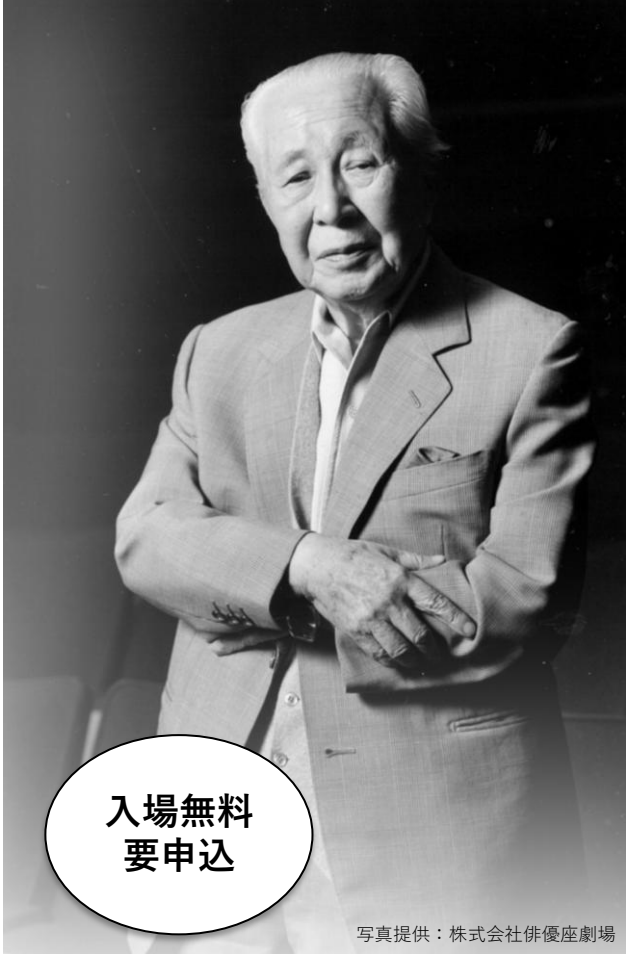
SYMPOSIUM 2026

倉林誠一郎がいた時代

― 戦後演劇制作者の肖像―



入場無料
要申込

写真提供：株式会社俳優座劇場

2026.12.05 [土]

13:30-16:30（13:00 開場）

立教大学 池袋キャンパス 14号館 2階 D201教室

1946年に俳優座に入団した倉林誠一郎（1912-2000）は
敗戦後の演劇界で制作者として劇団運営に東奔西走し
1954年開場の俳優座劇場建設にも尽力した。
戦後日本演劇を実務レベルで支えてきた人物である。
本シンポジウムでは『倉林誠一郎日記 1947-1952』（雄山閣）の刊行を機に
倉林誠一郎という演劇制作者の事績を再考し、証言の収集・記録を行なう。

岩崎加根子	神山　彰	蔭山陽太	福島明夫	後藤隆基
劇団俳優座／俳優	明治大学名誉教授	京都芸術大学教授	青年劇場参与	立教大学兼任講師

[コメンテーター] 細井尚子 立教大学異文化コミュニケーション学部 特別専任教授／同アジア地域研究所所員

13:30-13:35	開会挨拶＋趣旨説明	後藤隆基
13:35-13:45	報告「倉林誠一郎旧蔵資料と日記について」	後藤隆基
13:45-14:05	講演「倉林誠一郎さんとの思い出」	岩崎加根子｜聞き手：神山 彰
14:05-14:30	講演「横断的にみる『倉林誠一郎日記』」	神山 彰
14:30-15:05	講演「私の学校―俳優座劇場―」	蔭山陽太
15:05-15:15	［休 憩］	
15:15-16:30	討議「倉林誠一郎は何を遺し、何が継承されているのか」	

神山 彰／蔭山陽太／福島明夫／後藤隆基（進行）

【主　催】JSPS科研費 基盤研究（C）「近代日本演劇成立期の基礎的研究―新興演劇と政治小説の関係を中心に―」（代表：後藤隆基）
JSPS科研費 基盤研究（C）「近現代東アジア文化圏における興行財の大衆性と芸術性の相剋と相生」（代表：細井尚子）
【共　催】立教大学アジア地域研究所
【協　力】株式会社俳優座劇場 ／ 劇団俳優座 ／ 立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター
【後　援】日本新劇製作者協会 ／ 日本芸能実演家団体協議会（芸団協）

【問合せ】ajiken@rikkyo.ac.jp（アジア地域研究所）｜ryukigoto1981@gmail.com（後藤）

◆お申し込みはこちら⇒

※本研究はJSPS科研費24K03477、26K03518の助成を受けたものである。